IGC 事務局ニュース No. 3
第29回IGC事務局
Tel：0298—54—3627
Fax：0298—54—3629

First Circular の編集に向って

ワシントン会議の終了後，組織委員会は京都会議へ向けての本格的な活動を開始しました。ワシントン会議が1年遅れたため，準備期間はあと3年足らずしかありません。山積する課題の中で，First Circular (FC) の編集と配布は最も重要かつ緊急な作業のひとつです。

FCに盛込む内容の主役は何といってもプログラムと巡検です。このため，科学プログラム小委員会（久城育夫委員長）では，関係する専門分野全てに亘る委員を集めて検討を重ね，本誌（p. 14-16参照）にあるような内容が固められてきました。また，巡検小委員会（諏訪兼位委員長）においても，地域別・テーマ別によって提唱された100近いコース案の整理・統合等の調整が進められており，FC掲載のための最終案が間もなくまとめられる運びになっています。一方，近畿地区関係者からなる会場小委員会（西村進委員長）では，会場となる京都国際会館との接衝以外にも，会期中日帰りないし1泊2日程度で実施する小巡検のコース設定や同伴者プログラムの作成等，地の利を活かしたFC用の目玉商品が生み出されています。

FC用の原稿は事務局に集められ，運営委員会の調整を経て，年内には最終稿が出来上る予定です。来年早々には組織委員会の承認を得て印刷に廻し，遅くとも3月中には配布を終了したいと考えています。

科学プログラムの内容

本欄 No. 1 (10月号) でプログラムの概要を紹介しましたが，その後の検討の結果，本誌に見られますようにかなりの手直しが行われています。本誌の記述は英文でテーマを羅列しただけですので，やや判りにくいところもあろうかと思います。このようなプログラム案をまとめるに至ったプロ小委の基本的な考え方を以下に記しておきます。

科学プログラムの内容は，大別してシンポジウムとポスターセッションとする。シンポジウムにもいくつかの種別を設け，会議の焦点が明らかになるようにする。

シンポジウム　3カテゴリーに分ける。

1. 特別シンポジウム

もっとも特徴を発揮するシンポジウムで，特別なテーマについて行なう学術討論会とする。

1-1)　シンポジウムA：純学術的に地球科学の先端的なテーマを取り上げる。テーマ「地球の歴史，とくに島弧ならびに活動的大陸縁辺地域の進化」。6ないし7のサブテーマについてのシンポジウムを設ける。

1-2)　シンポジウムB：地球科学の応用的側面を取り上げ，人類と地球の相互作用に焦点をあてる。テーマ「人類の生き残りのための地球科学の将来」。4つ程度のサブテーマについてシンポジウムを行う。

1-3)　シンポジウムC：国際的な研究プロジェクトの研究成果と進捗状況を取り上げる。ODP, ILP, IGBP, IDNDR, IGCPなどの大型国際研究事業を対象とする。

2. 学際シンポジウム

2つ以上の異なる領域にまたがるテーマについてのシンポジウム。30ないし50個のシンポジウムを予定。

3. 領域別シンポジウム

各個の領域における現在的なテーマを取り扱うシンポジウム。約25個のシンポジウムが予定される。

以上のシンポジウムの最初の提案は1990年3月配付予定の会議の第1回サーキュラーのなかで行なう計画であるが，それは固定的なものでなく，国内外の反応を考慮しつつ最終案を固めることとする。

ポスターセッション

半日ないし一日発表の内容をポスターとして会場内の一定の場所に張り出し，発表者がその場にいて質問，討論に当たる形式の学術発表で，最近盛に行なわれるようになった。これには口頭による発表よりも効果的なものを積極的に取り入れるように考えている。

1)　地質図，断面図，写真などを示すことによって成果の内容がよく分かるような種類のもの。

2)　実験などのデモンストレーションを行なうもの。

3)　その他一般参加で口頭発表の時間を割くことができなかったもの。